



県内のジャガイモ産地では、
そうか病を抑制するため有機物
や石灰質資材の施用を控える傾
向にあり、現場では極端にpH
が低い圃場(ほじょう)や高い
圃場が見られます。

そこで、そうか病が発生して
いる圃場で、硫黄や硫酸第一鉄
を主成分とするpH降下資材と
石灰質資材として、土壌pHを
上昇させにくい硫酸カルシウム
を併用してジャガイモを連作。
収量やそうか病の発生と土壌pHとの関係を調査しました。

硫黄を主成分とするpH降下
資材の施用は無施用に比べて
1、2作目ではそうか病の発病
度を低く抑えることができ、健
全芋の収量も明らかに増加しま
した。しかし、3作目ではそう
か病の発病程度や収量に差が見
られませんでした。ジャガイモ用の化学肥料の窒素原料に

は主に硫安がされており、多用
すると土壌pHは徐々に低下し
ます。試験を行った圃場でも2
作目収穫後の塩化カリウム浸出
の土壌pHが3.5以下に低下
していたことが、3作目のそう

pH降下資材

ジャガイモそうか病 pH3.5以上で有効

か病の発病やpH降下資材の効
果に影響したと考えられます。
このことから、pH降下資材
の施用はそうか病の発病を抑制
して健全芋を増加させますが、
pH3.5以下ではその効果は
低くなるものと思われる。

pH降下資材の施用とジャガイモの収量、そうか病発病度

処 理	収量(kg/a)			発病度			収穫後の土壌pH(KCI)		
	1作目	2作目	3作目	1作目	2作目	3作目	1作目	2作目	3作目
pH降下資材なし	186	153	335	13.2	19.8	0.8	3.90	3.48	3.66
ガッテンパーハー	307	353	320	2.7	4.6	0.9	3.77	3.41	3.60
フェロサンド	206	200	341	4.2	4.5	0.8	3.86	3.50	3.62

※1) pH降下資材施用量は、1作目が100kg/a、2作目、3作目は春秋とも50kg

2) 化学肥料は、窒素成分量で26~18kg/10aを施用

3) 収量は、そうか病や腐敗芋を除く40g以上の塊茎の重量

(農林技術開発センター 農産
園芸研究部門 馬鈴薯研究室 室長
茶谷正孝)